研究課題名

「*Capnocytophaga* species感染症の臨床背景および臨床経過に関する多施設共同後方視的研究」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（承認番号　H28中倫小第49号）

研究実施についてのお知らせ

沖縄県立中部病院　集中治療室では、*Capnocytophaga* species感染症の臨床背景および臨床経過に関する多施設共同後方視的研究　を実施しております。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成　28年11月28日

【研究課題名】

*Capnocytophaga* species感染症の臨床背景および臨床経過に関する多施設共同後方視的研究

【研究期間】

1990年1月から2017年3月まで

【調査対象】

*Capnocytophaga* species感染症が血液培養または髄液から検出された患者

【研究目的・意義】

*Capnocytophaga canimorsus*をはじめとする*Capnocytophaga* species感染症は、犬、猫咬傷・掻傷感染症の一つであり、これまで世界で200例以上の報告があります。本感染症は極めて稀ですが、発症した場合には急激に敗血症、DICに至り致死率は約30%にも及ぶとの報告もあります。*Capnocytophaga canimorsus*感染症のリスクとして、肝硬変、脾臓摘出、アルコール依存症などが挙げられていますが、稀少な感染症のため確固たるエビデンスがあるというわけではありません。また、本邦からの報告は、ほとんどが症例報告であり、独立した症例シリーズによる臨床背景と経過についての文献上の記載はあまりありません。

そこで、本研究により*Capnocytophaga* species感染症に罹患した患者さんの臨床情報を調べることで、危険因子や治療方針を考える上で参考になる知見を得ることができると考えております。

【研究の方法】

上記の研究対象期間の対象患者さんの診療情報を調査票にして解析します。

調査票の内容は、

* 基本情報：施設名、入院日、血液培養採取日、血液培養陽性日、動物との接触日、診断時年齢、性別、同定された菌名、同時に分離された細菌、同定キットの種類と同定方法
* 臨床背景：診断名、入院時バイタルサイン、ショックの有無、基礎疾患(Charlson Comobidity Indexを用いてスコア化)、基礎疾患の治療、造血幹細胞移植の有無、造血幹細胞移植の詳細、免疫抑制剤の使用、脾摘の有無、機能的無脾症の有無、抗菌薬予防内服、アルコール飲酒歴、喫煙歴、動物との接触歴、ペット飼育歴、海外渡航歴、CV、末梢ラインの有無、随伴症状　（Pitt Bactremia Scoreを算出）
* 診断時検査所見：WBC、Hb、Plt、好中球、リンパ球のパーセンテージ、CD4陽性細胞数、CD4/8比、PT、APTT、フィブリノーゲン、FDP、Dダイマー、BUN、Cre、CRP、PCT、IgG、IgA、IgM、画像所見
* 治療・予後に関する情報：抗菌薬治療内容、ICU入室の有無、人工呼吸器管理、薬剤感受性の有無、感染症による合併症、予後（生存状態）、最終生存確認日(死亡日)

となります。

【個人情報の取扱い】

この研究を実施するにあたって、対象となる患者さんの診療情報から住所、名前等が削られ、代わりに新しい符号をつける匿名化を行います。各々の患者さんとこの符号とを結びつける対応表は、当院の研究責任者が厳重に管理します。解析を行う研究者には新しい符号と解析対象となる情報のみが伝えられます。解析している研究者は個人情報がわからず、誰の診療情報を解析しているのかわからない方法を用います。

【研究機関】

沖縄県立中部病院　集中治療室

自治医科大学附属さいたま医療センター　血液内科

など、多施設が参加しております。

【本研究に関する問い合わせ先】

沖縄県立中部病院　集中治療室　医師　毛利英之

電話　098-973-4111　FAX　098-974-2165